

学会通信

第17号

会員の皆さまへ

理事長 米山 文明

錦秋の候、ご清栄にご活躍のこととお慶び申しあげます。学会通信17号をお届けします。

激しい社会の変動に皆さまもいろいろご苦勞もおありと存じます。本学会も今大きな変革の時期を迎え、執行部も苦闘の連続です。概略は後述いたしますが、まず前号以後の学会の歩みをご報告いたします。

21年5月例会(89回)は午前の研究発表の後、午後は演奏者の都合でいつもと順序が変わって、現役声楽家のコーナーにカウンターテナー上杉清仁氏の演奏とお話がありました。最近国内外で注目の活動を始めている新鋭です。演奏曲目も意欲あふれる、充実した内容で立派な歌唱でした。お話も会員に丁寧に答えてくださり、有意義に終えました。

特別講演は、これまで熱望されながら実現できなかった日本の代表的ソプラノ林康子先生とご主人のG.ピリウッチ先生の公開レッスンでした。

どちらも学会誌38号で詳細に報告の予定です。

夏の研修会は、昨年的好评につづいて再び富士山麓御殿場のYMCA東山荘で行われました。

(A)合唱講座の松原千振先生は昨年につづいて北欧の合唱と、特に北欧諸国の言語のルーツとそれらの長所、短所の比較は非常に興味深く、なるべく多くの会員に聞いていただきたいので、平成22年11月開催の東京での例会に特別講演をお願いいたしました。

後半は、横浜雙葉学園中・高校生の合唱指導の実技を披露していただき、たいへん好評でした。(B)末芳枝理事と田中房子会員による公開レッスンが2室に分かれて行われ、好評でした。(C)夜のコンサートも昨年につづいて末芳枝理事の温かい進行で行われ、歌い手も聴衆も和やかで楽しい雰囲気満喫しました。

2日目のパネルディスカッション(D)学校教育現場における発声指導では、加藤、高嶋、豊田会員の実践報告があり、川村、米山両理事がそれぞれの立場から発言し、フロアの会員も加わって討論が行われました。結論は得られなかったため、後日問題を整理して報告することになりました。(E)川村英司理事による公開レッスンは、技術レベルが高かったにもかかわらず、歌唱技術の細部に関わる基本的な要点を分かりやすく示されていました。最後の(F)パネルディスカッションのテーマは、11月例会で行う予定の〈本学会のあり方〉の問題点をさぐるための予行的な意味で行われました。学会として、いろいろな方向への問題のとらえ方と実行方法を追求する目的です。若干気になった点に、「40年史でみると初期の頃と現在とであまり変わらない」という発言がありました。

たしかに理念としての表現は、同じようにもって見えますが、それを具体的にどのような形で積み上げ、体系づけられてきたかという点には疑念を感じました。学会としての演奏、理論(研究)、教育各部門の方向性と、その実行手段が若干見えにくい点です。学会というのはそんなものであるといえればそれまでですし、ほかの学会にも大同小異のものもありますが、果たしてそれでよい

のか反省してみるのも有益だと思います。秋の例会での本番に期待します。

11月例会の新しい試みとして、〈ディベート〉という討論方式をやります。ご存知の方は多いと思いますが、アメリカでは小・中学校頃から盛んに行われます。一つのテーマを決めて賛否両方に分かれ、それぞれの立場を主張させる一種のゲームです。学会でそのまま通用するわけではありませんが、自身の意見と逆の立場に立って相手と討論する方法もあることを学べます。その習得によって、学会でのディスカッションも和やかになり、人間関係を豊かにするのに役立つと思います。

報告事項として、学会誌の新装改名、投稿規程の改訂については検討を重ねております。用語集の制作も順調に進み、任期末までには発行予定です。

最後に重要な問題として「会則検討委員会」は、本学会のさらなる充実、進歩発展を目指して、そのためにはどのようにすべきかを熟考し、討議を急ピッチで進めています。

新しい政党内閣の誕生にからみ「教員免許更新制度」は、僅か1年で廃止が決まりました。この制度について、つい最近ある会員の方から実習体験談を聞いて驚きました。実情を話していただきたいと思っています。長年目まぐるしい豹変の繰り返しで悪名高い「学習指導要領」に加え、またしても文科省の無定見な暴挙愚行は絶望的です。

会員の皆さまのますますのご健勝とご活躍をお祈りし、併せて学会へのご協力とご鞭撻をお願いいたします。

* * *

学会通信16号「呼吸筋群について」訂正

p.2 I 呼吸筋群 → 吸気筋群
(誤) (正)

第11回教育部会開催ご案内

- ・日時 11月28日(土) 13:00~16:30
- ・会場 東京芸大音楽学部 5-109 講義室
- ・プログラム
 - A 小中学校の発声教育における指導の留意点について
 - 1. 子供教育の重要性 2. リラックスとは
 - 3. Tonus と Spannung の違い
 - 講師 米山文明
 - B パネルディスカッション
歌唱指導における唱法の問題
 - 司会 永井和子
 - パネリスト 小川昌文
長谷川恭子 (淑徳短期大学講師)
 - コメンテーター 池田京子
 - C フリートークキング 司会 小川昌文
- ・会費 2,000円 当日会場でお納めください。
- ・参加申込について

ご希望の方は、11月26日(木)までに、本学会事務局に FAX. 郵送または Eメールでお申込みください。

FAX.047-479-5701 Eメール jars@hotmail.co.jp

〔会員日より〕

大きな収穫のあった夏季研修会

人見吉晴

日本声楽発声学会みたいなどころに参加するのは初めてです。参加する前から胸がわくわくします。受付を通り、東山荘の2階の講堂に入ってみると、音楽の高い香りがします。

事前に研修会の内容を見てみると、ヨーロッパの歌曲ばかりです。日本人なのに、なぜドイツなどのヨーロッパの歌曲ばかり歌うのだろう。なぜ歌詞の意味が全くわからないのに聴くのか。疑問

のままだった。

1日目、講座とコンサートを聞きました。2日目はドイツ歌曲講座で、ヨーロッパの歌曲を生徒さん3人が歌うのを聴きました。その3人目の歌を聞いていると、歌詞の意味はまったくわからないけれど、何となく身体と心が気持ちよくなってくのではないか、歌っている生徒さんも、気持ちよく歌っているではないか。そのとき、皆が好んでヨーロッパの歌曲を歌うのか、その理由が何となくわかったような気がしました。これは大きな収穫です。自分も歌いたい気持ちになりました。

合唱講座で印象に残っているのは、川上先生の「このように舌を出して歌うといいよ」という指導です。疑問が残ったが、後でよく考えてみるとまさに理にかなっているのです。

さて、家に帰り、声を出して歌ってみると、以前とまったく違う声が聞こえてくるのではないか。自分の理想とする声がそこにあった。

〔トピック〕

会員の小林寿和子さんが、平成21年8月28～29日開かれた、第5回ルーマニア国際コンクールで「トランシルバニア賞」を受賞した。このコンクールは、声楽のほか器楽部門もあり、単に専門技術面だけでなく、音楽性、芸術性も含めた賞もある。小林さんの受賞されたトランシルバニア賞は、歌がうまい、声がよいという点についてではなく、聴いていて〈心地よい声〉〈心に優しい声〉というのが受賞理由とされるとか。因みにトランシルバニア地方はルーマニア北西部の山脈に囲まれた台地で、鉄鉱石の宝庫でもあり、「吸血鬼伝説」で有名。この伝説にもめげず心を和ませ、温かくしてくれる声という評価だろうか。(現在、小林さんが学んでいるAtem・Tonus・Ton方式は、このような声を育てる効果があるのかもしれない。米山)

◆永井和子理事神戸市文化賞受賞◆

永井和子理事は、「神戸文化の向上と発展に多大な貢献をされている方に対して、その長年のご精進に報いるため、神戸市民の誇りとしてお贈りするもの」(プログラムより。受賞式は9月29日)という「神戸市文化賞」を受賞されました。関西歌劇団に長年在籍し、平成18年から2年間にわたり同団理事長を務めるなど、オペラの普及、発展に貢献。また、44年間大阪音楽大学で教鞭をとり、後進の育成に尽力。そのかたわら国内外でのリサイタル、さらに発声学の研究者として講演、講座も多数。神戸日独協会最高顧問のほかコンクール審査員等も歴任、音楽界の発展育成に寄与されています。

◆演奏会◆

○早瀬一洋テノールリサイタル

2009年11月3日(祝) 14時

於浜離宮朝日ホール

会員の早瀬一洋氏(本学会監事)のリサイタルが開催された。満場の温かい空気に包まれた秋日和のひととき。来場の会員F氏は「今までの演奏の中で、一番心に沁みるコンサートでした。昨年拝聴したときより、また一段と磨きがかかり、ご精進ぶりを忍ばせていただきました」と述べている。早瀬氏も「もっとよい歌を歌いたいという一念でリサイタルをつづけてまいりました。これからも皆様に感動していただけるよい歌を歌ってゆきたい所存です」と語っている。

○藤原歌劇団創立75周年記念オペラコンサート

11月23日(月・祝) 14時 於東京文化会館

第90回例会特別講演講師五十嵐喜芳先生

プロデュースによるオペラコンサートです。

出演：林 康子(第89回例会講師)、

出口正子 中鉢 聡 村上敏明 他
指揮：菊池彦典 東フィル
ゲスト出演：ミケーレ・ペルトウージ
イタリアの世界的なバス歌手

予定演奏曲目
「ラ・トラヴィアータ」より 乾杯の歌
あぁ、そは彼の人か～花から花へ
「ラ・ボエーム」より
冷たい手を 私の名はミミ
「ノルマ」より ごらんなさいノルマ
「蝶々夫人」より ある晴れた日に 他
お問合せ 03-6407-4333 03-5685-0650
主催：(財)日本オペラ振興会

○本多厚美リサイタル

—ダルトン・ボールドウィンとともに—
(会員 メゾ・ソプラノ)
エディット・ピアフ ～歌に生き愛に生き～
11月20日(金) 19時
於サントリーホール 小ホール
11月27日(金) 19時
於アクトシティ浜松音楽工房ホール
演奏曲目 H.デュパルク 旅へのいざない
H.ベルリオーズ ばらの精
「夏の夜」より
A.トーマ 君よ知るや南の国
「ミニヨン」より
ルイギー 薔薇色の人生
M.モノー 愛の賛歌
J.コスマ 枯葉 他
お問合せ 053-472-0452

○第22回瀬山詠子独唱会

—傘寿80歳を記念して—
平成19年11月例会にご出演の
瀬山先生のコンサートです。
平成22年3月27日(土) 14時

於東京藝術大学奏楽堂
演奏曲目 石桁真禮生 秋の瞳 鴉 貝殻
末吉保雄「中原中也の三つの詩」より
おかる勘平
指揮：末吉保雄 ピアノ 寺嶋隆也
賛助出演：フルート 野口 龍 打楽器 菅原 淳
コントラバス 溝入敬三
お問合せ 03-3796-1831

◎第90回日本声楽発声学会例会関係連絡

日時 11月29日(日) 9:50～17:00
会場 東京芸大第1ホール(5月例会と同じ)
(昼食について)今回は都合により、芸大内レスト
ランキャッスルは使用できません。

- ①近くのレストランをご利用ください(下記等)。
東京都美術館・東京文化会館2階精養軒・芸大
美術館・子ども図書館、またファミリーレスト
ランまで徒歩約8分。
- ②お弁当もご用意いたします。ご希望の方は下記
口座に代金として1,200円お振込みください
(締切は、11月26日)。
振込先 三菱東京UFJ銀行 津田沼支店
普通預金 0393943 日本声楽発声学会
- ③お弁当持参可。

〔事務局より〕

- ◎学会誌、学会通信への投稿をお待ちしてありま
す。演奏会、出版、CD制作ほか近況等を事務
局までお寄せください。

事務局長 川上勝功

| | |
|-----------------------------|-------------|
| 学会通信 第17号 | 平成21年11月19日 |
| 日本声楽発声学会事務局 | |
| 〒275-0005 習志野市新栄2-9-2 西村暁子方 | |
| TEL/FAX. 047-479-5701 | |